

(様式 1)

自 己 評 価 表

(愛媛県立松山盲学校)

学校番号(48)

教育方針	視覚等に障がいのある幼児児童生徒の障がいの状態及び特性等に十分配慮した教育を行うとともに、学習上又は生活上の困難を改善・克服し自立を図るために必要な知識、技能、態度及び習慣を養う。	重点目標	1 授業改善や研修の充実により知識の理解の質を高め、自ら学び自らの考えを広く深め表現する学習を通して、これからの時代に求められる「確かな学力」を育む。 2 多様な体験活動を通して、自らを律しつつ他を思いやり、絆を大切にして感動を共にする「豊かな人間性」を養う。 3 学習上又は生活上の困難を克服し、たくましく生きる基盤となる「健康や体力」を維持し、増進する。 4 心豊かな社会生活につながる職業自立・社会自立を図るとともに、「キャリア教育」の一層の推進を図る。 5 関係機関との連携を深めて開かれた学校づくりを推進するとともに、「センター的機能」を充実させて特別支援教育を一層推進する。
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	学習評価の充実	評価方法・規準などを教師同士で検討・明確化し、評価に関する力量の向上に努め、年末の学校評価アンケート(10点満点)において教師の評価向上を図る。 A: 9点以上 B: 7～9点 C: 5～7点 D: 3～5点 E: 3点以下	B	学校評価アンケート(10点満点)において、昨年度の8.4から7.9へ低下している。これは、学習評価が必ずしも授業改善につながっていないと受け止めている教員が一定数存在することを示している。	・学習評価は生徒に対する評価にとどまるものではなく、教員自身の指導方法や授業の在り方を振り返るための重要な指標であることについて、改めて周知を図るとともに、教員一人ひとりの自省を促す取組を進めていく必要がある。
	実態に沿った教材の作成	個々の児童生徒の視覚や学習状況に合わせた教材・教具を工夫し、作成する。年度末の学校評価アンケート(10点満点)の教師・保護者・生徒の結果により評価する。 A: 9点以上 B: 7～9点 C: 5～7点 D: 3～5点 E: 3点以下	B	教師8.4、保護者8.0、生徒8.7という評価を得た。過去3年間を見ても、おおむね8.0を超えており、一定の水準を維持している。	・点字教材及び音声教材等、生徒の見え方に応じた教材の作成は実施できている。さらに、学習状況に応じた教材の提供については、各教科担当及び担任が相互に情報共有を図りつつ、連携して取り組む必要がある。
生徒指導	学校生活の充実	面談やアンケートを活用し、日々の学校生活全般の児童生徒状況に注意を払うことで、予防的な取り組みに重点を置いて支援し、心理的安定を図る。	B	内部相談担当者と協力しながら面談やアンケートを活用したり、関係の教職員からの情報収集と共有、児童生徒との対話等を行ったりすることで、一定の成果が得られている。	・いじめ等に対する予防的取組に引き続き重点を置いて支援を行うとともに、関係教職員と緊密に連携しながら学校内外の生徒の状況に関する情報の収集と共有、個別の適切なアプローチに一層努めたい。
	安全指導の徹底	学校内外で個別に必要な応じた安全指導を行うとともに、様々な状況の中で安全に移動ができる技術を身に付ける。	B	個別の安全指導を校内外での活動の事前学習や実施の際に行うことができた。安全な移動に関しては、校外学習や通学練習等の際、状況に応じた技術を習得する機会をある程度、設定することができた。	・安全指導については校外学習や通学時等で取り組めるよう、引き続いて各学部関係者と連携して取り組みたい。また、安全な移動に関する技術を習得し実践に生かせるよう、学級担任を中心として通学等に関する情報収集に努め、自立活動担当者等関係者と連携しながら効果的に取り組みたい。
進路指導	キャリア教育の充実	進路情報の提供(年間3回以上)や進路相談等の機会を充実させ、キャリア発達段階や進路希望に応じた系統的なキャリア教育を推進する。	B	「進路の手引き」については発刊が実現できなかったが、「進路だより」は、3回の発刊を実現できた。求人情報の提供や生徒の実態に即したキャリアガイド教室等充実した取組ができた。	・「進路だより」の安定した発行、「進路の手引き」の作成、学校ホームページでの進路情報の掲載に取り組む。また、事業所見学の設定や現場実習先の選定等を生徒の希望や実態に即したものにす。
	就職・進学指導の充実	児童生徒が希望する進路に応じて、あはき師国家試験の合格率100%、希望する就職・進学の達成率100%を目指す。 A : 100% B : 90～100% C : 80～90% D : 70～80% E : 70%未満	A	現時点で結果が出ているものに限るが、全ての進路希望が達成できた。新規求人情報からの進路先開拓や福祉サービス事業所等個々のニーズに対して的確に対応できた。	・児童生徒・保護者の進路希望の確認や相談、それに対応した最新の進路情報の収集と各種対策を進める。毎年状況は異なるが、国家試験の全員合格、全員の進路希望の達成に努めたい。また、卒業生のアフターケアの取組も継続して行いたい。

自 己 評 価 表

(愛媛県立松山盲学校)

学校番号(48)

教育方針	視覚等に障がいのある幼児児童生徒の障がいの状態及び特性等に十分配慮した教育を行うとともに、学習上又は生活上の困難を改善・克服し自立を図るために必要な知識、技能、態度及び習慣を養う。	重点目標	1 授業改善や研修の充実により知識の理解の質を高め、自ら学び自らの考えを広く深め表現する学習を通して、これからの時代に求められる「確かな学力」を育む。 2 多様な体験活動を通して、自らを律しつつ他を思いやり、絆を大切にして感動を共にする「豊かな人間性」を養う。 3 学習上又は生活上の困難を克服し、たくましく生きる基盤となる「健康や体力」を維持し、増進する。 4 心豊かな社会生活につながる職業自立・社会自立を図るとともに、「キャリア教育」の一層の推進を図る。 5 関係機関との連携を深めて開かれた学校づくりを推進するとともに、「センター的機能」を充実させて特別支援教育を一層推進する。
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
特別支援教育	教育相談の充実	関係機関との連携を深め、地域・校内のニーズや実態に応じた支援を行い、教育相談活動(生活・学習支援、カウンセリング等)の一層の充実を図る。	C	夏季休業中に教職員が分担して県内の関係機関を訪問し、本校の役割や視覚障がいに関する理解や啓発に努めた。	・教育相談については、児童生徒の実態に合わせて相談しやすい環境を整え、担当者のみならず全教職員がカウンセリングマインドを持って相談に当たる。
	専門性の一層の向上	実践報告会など、年間10回以上計画・実施している研修に参加し、専門性の強化に努め、授業改善を図る。	B	外部講師を招いた全校研修や、現職研修報告を含んだ実践報告会、自立活動委員会等との連携によるグループ研修を実施することができた。県内外の研修会への参加も増えた。	・各課と連携して様々なニーズに対応した研修内容を設定し、専門性の維持・向上を目指した研修を実施したい。また県内外の研究会・研修への積極的な参加を呼び掛けたい。
		県内外の認定講習受講の働き掛けを通して、特別支援学校(視覚障がい)教員免許取得率の一層の向上を図る。	B	認定講習等を活用し、教員免許(特別支援教育視覚障害教育領域)の取得率を維持している。	・特別支援教育(特に視覚障害領域)の免許を保有しない教員に働き掛け、免許取得率の更なる向上を目指し、専門性の維持・向上を図りたい。
業務改善	勤務時間の適正化	業務の効率化や精選を行い、ノー残業デーの日を取り入れながら勤務時間を意識した働き方を実践し時間外勤務月45時間以内の教員を着実に増加させる。	B	概ね、ノー残業デーを意識して業務を行い、時間外勤務月45時間以内の教員が9割以上となった。勤務時間については適正化が進んでいる。	・ノー残業デーの日の継続と、先を見越した業務計画を意識させ、年間を通した時間外勤務時間の平準化を図りたい。
	職場環境の整備	職場環境の改善、健康講座や健康相談の案内、管理職面談等を定期的に実施し、快適な職場環境づくりを推進する。	C	各学部内においては、部主事や主任を中心に連絡・相談がなされている。また、健康相談等の案内や管理職面接を適宜行った。	・管理職面接を定期・随時で行うことを周知していく。また、各学部を越えた行事や組織を形成し、チームで取り組めるよう連携・協力を進めていきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。